売り上げを最大化する

デジタル名刺 ハンドブック



sansan

はじめに

急激に増加するオンラインでのビジネスの出会いを正確に蓄積し、 企業の売り上げ最大化を後押しします。

01	デジタル名刺でできること2
	デジタル名刺で受注率を上げる
	Sansanユーザー3社に聞いた デジタル名刺の活用法
02	デジタル名刺の使い方 5
	デジタル名刺の送り方
	デジタル名刺の受け取り方と返送方法
03	現場に浸透させるための活用tips 9
	先方に名刺を送り返してもらうには
	商談当日のデジタル名刺交換 トーク例
	バーチャル背景の設定で交換をスムーズに
	「管理者一括設定」で社員の名刺を登録
04	外部ツールとの連携14
	Microsoft Teams連携
	Google Workspace™ 機能連携

ご留意事項

[※] 本資料は、社内説明用途以外での利用をお控えください。

[※] ご契約内容や設定状況により、表示される画面が異なる場合がございます。

また、本資料の内容は2025年6月時点のものです。

デジタル名刺でできること

売り上げを最大化するデジタル名刺

関係構築が難しいオンラインで、信頼を獲得し、 接点情報を正確に蓄積することが、これからの事業戦略おいて非常に重要です。

1. 企業としての発信力強化

直接会う機会が減り、オンライン会議やメールの割合が増えています。人や企業としての確かさが伝わりづらい時代だからこそ、組織全員が自社公式発行のデジタル名刺を持つことで、企業としての発信力を強化し、顧客の信頼を獲得します。



2. 正確なデータを蓄積

相手がSansanユーザーでなくても、誰とでも簡単に名刺交換ができます。いつ、どんな部署 / 役職の方とお会いしたのか、オンラインの接点を漏れなく蓄積することが数年先も見据えた資産になります。



3. リッチなデータの活用

一度デジタル名刺を交換すれば、人事異動や企業の決算など、ビジネスに必要なあらゆる情報が受け取れます。コンプライアンスチェックやSFA,MA連携など、普段お使いのSansanと同じように、データ活用が広がります。



4. 現場浸透のしやすさ

これらの価値が、ビジネス習慣である「名刺交換」だからこそ、オンラインでも簡単に実現します。現場でのツール定着がスムーズで、今すぐにはじめられます。



Sansanユーザー2社に聞いた デジタル名刺の活用法

率先してデジタル名刺を社内へ展開した Sansanユーザー3名のデジタル名刺の活用シーンをご紹介します。



シミックホールディングス株式会社 成田さん

オンラインイベントから、 案件を創出

デジタル名刺があれば、順番待ちをせずに、イベントの登壇者とも名刺交換ができます。Sansanのオンラインイベントでは、スピーカーの方がデジタル名刺を公開されていたため、そこからスムーズに名刺交換ができました。結果として、名刺交換をきっかけに案件を創出できたことは大変印象に残っています。

自己開示が、安心感や 信頼感につながる

デジタル名刺のURLをメールの署名欄に追加しました。営業担当の引き継ぎの際、顔を合わせたことがないお客様に、より親近感を持ってもらうためです。会ったことがなくお互いの情報がない中でも、デジタル名刺でまずは自らが肩書きや氏名、顔写真などの情報を提供することで、安心感や信頼感を感じてもらうことができています。



株式会社ユニオン 石丸さん

デジタル名刺の使い方

デジタル名刺を送る

デジタル名刺の使い方はシンプルです。 URLやQRコード付き背景で共有しましょう。





1 共有用URLを発行・コピー

2 チャットツールやメールなどで URLを相手に共有



相手側

URLをクリックすると 名刺情報が届き、 そのまま送り返しが可能 Sansanユーザー

Eightユーザー

デジタル名刺の受け取り方と返送方法

Sansan・Eightユーザー同士は、一瞬で交換が完了します。



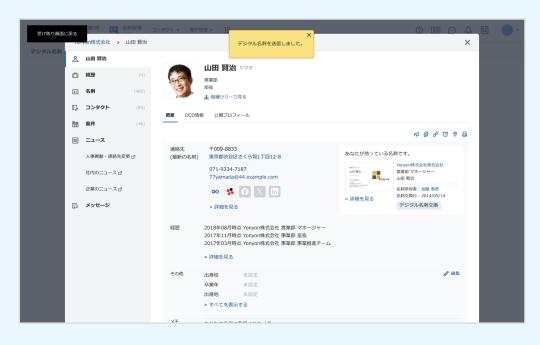
山田賢治さんの名刺を受け取りました

あなたのデジタル名刺も送信して名刺交換しましょう。

あなたの名刺を送信

送信しない

Sansan・Eightの アイコンから名刺交換 2 自分のデジタル名刺を送信



交換した名刺は、SansanやEightに自動で反映

Sansan·Eight 未使用

デジタル名刺の受け取り方と返送方法

Sansanを利用していない方でも、送られてきたデジタル名刺を受け取り、 自分の名刺を簡単に送り返すことが可能です。

フォーム入力して返送





1 フォームに名刺情報を入力

2 その場で名刺が作成され 送り返しが完了

名刺を撮影して返送



1 QRコードを読み取る





2 ご自身の名刺を撮影し交換完了

*相手の名刺情報はメールで受け取ることが可能です。

03現場に浸透させるための活用tips

先方に名刺を 送り返してもらうには

名刺を送り返してもらうことで、データが蓄積されます。 より交換をスムーズに行うための3つのポイントをご紹介します。

POINT 1

デジタル名刺での自己紹介に慣れる

まずは、デジタル名刺交換に慣れましょう。 ミーティングの最初に、チャットで必ずデジタル名刺を送る ことを習慣づけます。パソコンの辞書機能を使うことで、ス



POINT 2

ムーズにURLを出せます。

相手に役立つことを伝える

商談であれば「正しくお客様のことを理解し今後ご提案するために、ぜひ送り返しをお願いします。」や、セミナーで「交換された方は、セミナー後も質問歓迎です」とお伝えするなど、お互いの関係に役立つことを伝えましょう。



POINT 3

交換の機会を増やす

紙名刺の交換チャンスは一度きりですが、デジタル名刺だからこそ、タイミングは無数にあります。

例えば、打ち合わせ前にメールで送ったり、会議やセミナー 登壇でのバーチャル背景として設定する、メールの署名欄を 活用する、など機会を増やすことで、送り返しが増えます。



商談当日の デジタル名刺交換トーク例

相手がSansanを利用していない場合は、 下記の様に切り出すことで、スムーズに名刺交換いただけます。

はじめまして。株式会社○○○○の○○と申します。本日はよろしくお願いいたします。 本来直接ご挨拶すべきところですがオンラインでのお打ち合わせですので、 はじめにデジタル名刺交換をお願いできますでしょうか? URLをチャット欄に送信 こちらが私の名刺情報です。お手元にお名刺はお持ちでしょうか? はい いいえ カメラのアイコンからQRコー 鉛筆のアイコンから○○様の ドを読み込み、○○様の名刺 ご連絡先を入力し、送信をお の撮影をお願いします。 願いします。 名刺撮影・送信 フォーム入力・送信 ありがとうございます。私の名刺情報はご入力いただいたメールアドレスの方にお送りさ れていますので、後ほどご確認をお願いいたします。 名刺交換完了

バーチャル背景の設定で ビジネスに信頼感を

当たり前になったオンラインでの打ち合わせやセミナー。 名刺情報のバーチャル背景を設定することで、より上質な体験になります。



1

[バーチャル背景] を クリック



2

お好きな背景を選択し、 ダウンロード



3

オンラインミーティング ツールの バーチャル背景に設定

「管理者一括設定」で 社員の名刺を登録

デジタル名刺は、Sansanユーザーであればだれでも持つことができます。 紙の名刺がなくても、管理者が一括ですぐに登録・更新できます。





事前にデジタル名刺 について周知

一括設定を始める前に、ユーザーに対して デジタル名刺の活用方法や設定に関する説 明を進めましょう。





ユーザーのプロフィールを設定

デジタル名刺に記載する情報の元となる ユーザープロフィールは、一括で取り込ん で設定できます。



3

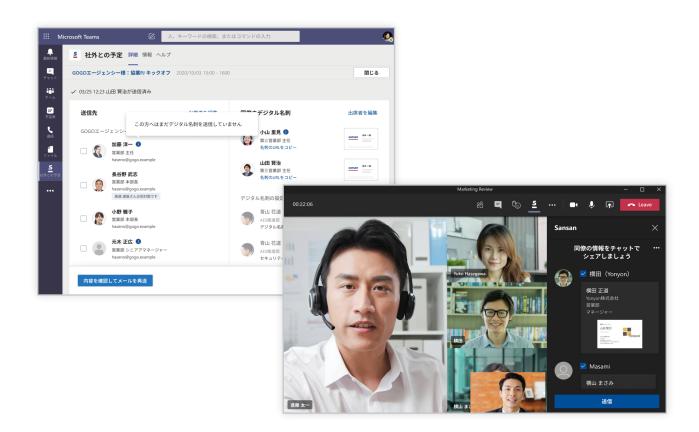
デジタル名刺を一括設定

ユーザープロフィールの設定が完了していれば、管理者の作業だけで各メンバーのデジタル名刺を一括設定できます。

外部ツールとの連携

Microsoft Teams連携

Teams上のSansanアプリで、社外との予定のみを一覧で抽出。 各予定の参加者を、Sansanの名刺情報と自動で照合し、 「既に名刺交換済み」といった関係性のチェックが事前に行えます。 初対面の方がいる場合は、2クリックでデジタル名刺を事前に送れます。



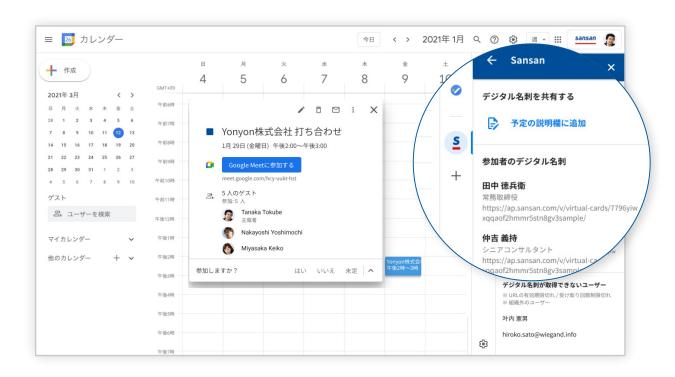
Teams連携でできること

- ✓ 会議のはじめに、デジタル名刺交換
- ✓ 社内人脈を活用し、提案力UP

詳しい使い方はこちら https://sin.sansan.com/best_practice/update-microsoft-teams-sansan/

Google Workspace™ 機能連携

Sansanのデジタル名刺を、Google カレンダーで簡単に共有できます。 使い慣れているGoogle カレンダーで予定を組むだけで名刺交換ができ、 お会いする前の信頼構築が、受注率の向上につながります。



Google Workspace™ 機能連携でできること

- **❷** Google カレンダー上でデジタル名刺を表示
- カレンダーで会う前に名刺を共有
- ✓ 社内メンバーの情報が一目で分かる

名刺管理から、収益を最大化する

sansan